

# Topic

## COLUMN: 先生紹介 ▶ 兼田 幹 (高殿教室)

### 将来ダーンと伸びるために。意識してほしい2つのポイント



皆さんこんにちは。昨年度は関目教室、今年度は高殿教室で非常勤講師をしている、兼田幹です。中学校の三年間を今津教室でお世話になり、高津高校へ進学し、現在は神戸市外国語大学に在籍しています。大学では英語を専攻しているので、英語の質問は大歓迎です。

皆さんは短期記憶と長期記憶という言葉を知っていますか。簡単に言えば、短期記憶はテスト前まで覚えていたけれど、テストが終わってしまえば、その記憶は消えているという状態のことです。逆に長期記憶とは仕組みまで理解してから、問題集などで回数をこなして頭の中に定着させることで、知識を忘れにくい状態のことを言います。定期テストで点数を取るためには、一夜漬けで乗り切っている人も多いと思います。しかし、一夜漬けで高校受験や実力テスト、模試などでも高得点を取れると思いますか？これらのテストでは中

学校で学んだことのほぼすべての範囲が出題されるので、そう簡単にはいきません。個人的な話ですが、僕が中学生だった時は定期試験が苦手で、その結果、入試に使われる内申点は45点中38点(当時高津に受かる子のほとんどは低くても40点)で、不利な状態でしたが、当日の試験で巻き返して合格しました。今思い返せば、定期試験では成果が出なかったけれど、カイチの言うとおりに勉強していたおかげで自然と知識が抜けにくい長期記憶型の勉強方法を身に着けていたのだと思います。もちろん定期試験も内申点として入試で点数に入るので重要です。しかし、定期試験でできるだけ良い結果を求めると短期記憶の学習になります。なので、皆さんが今、定期試験で点数が伸びていなかったとしても、カイチの言うとおり、正しい方法で勉強していれば、実力テストや、最終的には、入試で成功するでしょう。勉強方法に慣れない間はしんどいかもしれませんが、辛抱強く頑張らしましょう！

もう一つ伝えたいことがあります。それは、僕が大学生になってから気づいたことです。カイチで働き始めてから1年以上が経って、たくさんの生徒から質問を受けてきました。そ

で、たくさんの生徒が「なぜ？」という疑問を多く持っていることに気づきました。僕が中学生、高校生だった頃は、授業で習う内容は「なぜ？」という疑問もあまり持たずに、「そういうものなんだ」と思い、完全に受け身で勉強していました。そうすると、大学に入ってから、授業についていけなくなりました。なぜなら、大学は中学校や高校などと違って、先生が答えを教えてくれるのではなく、自分で「なぜ？」を考え、自分で調べ、自分の意見を持つということが必要だからです。そして、授業中には他人と意見交換をして、自分が気付かなかったことや、他の人の考え方などを知ることができます。このように、今までと違った学習の仕方、より深く学んでいる実感があります。僕も中学校の頃から、疑問を持ちながら、勉強や生活をしていたら、大学生になった今、少しは楽に過ごせていたと思います(笑)。なので、生徒の皆さんに伝えたいことは、普段テレビのニュースに簡単な感想を考えてみたり、普段の勉強で「なんだろう」と思ったら、自分で調べてみたり、カイチの先生に聞いてみたりして、今のうちから考える癖をつけておくといいと思います！これからもよろしくお祈りします！

生徒と保護者と先生の共育ニュースレター

# Growing

September 2020 Vol. 96  
毎月10日発行

【本 部】  
城東区今福西2-1-8モデラートWASHIMI 201  
TEL.06-6939-0008

【今福教室】  
城東区今福西 2-9-20  
TEL.06-6934-4662

【関目教室】  
城東区関目 4-6-17-2F・3F  
TEL.06-6934-8117

【古市教室】  
城東区古市 3-21-8  
TEL.06-6931-0467

【カイチ予備校】  
城東区今福西 1-10-17  
TEL.06-6935-2220

【万緑会】  
天王寺区上本町 6-9-10-3F  
TEL.06-6772-5011

## 第一志望校合格の秘訣は、絶対に〇〇〇〇ないこと。



高木 秀章(塾長)

本当に今年の夏は暑さが厳しかったですね。そして、その暑さは当分続きそうです。皆さん、コロナ対策と共に、体調管理にはくれぐれも気をつけてください。受験生の皆さんはいよいよ9月。受験も後半戦に入ってきました。夏期講習期間は例年より短かったのですが、その分1日の授業時間を増やしてできるだけ例年と内容や分量を変えないよう指導しました。かなりきつい講習会だったと思いますが、夏期講習中に合格しなければならぬ小テストや課題の達成率は高く、みんな本当によく頑張ったと思います。今は、進研模試も終わりちょうど一息ついているころかもしれません。

ただ、ここからが受験の本番。特に10月・11月は受験校決定のためのテストが目白押しです。今回は、テストのスケジュールとそれぞれのテストの重要性、そして、志望校合格に大きく関わる、心構えについて書きたいと思います。

9月～11月の3カ月間に計10回のテストがあります。

	学校テスト	塾テスト
9月	実力テスト(上旬)	五ツ木模試
10月	実力テスト(上旬)	進研模試
	中間テスト(中旬)	
11月	実力テスト(上旬)	進研模試
	期末テスト(下旬)	
12月	私立決定 ←	五ツ木模試
1月	実力テスト(上旬)	進研模試
	学年末テスト	
2月	私立入試(上旬)	
	公立決定 ←	
3月	公立入試(中旬)	

これらのテスト結果が、受験校決定に使われるデータとなりますが、特に重要視されるテストが、10・11月の「実力テスト」と「五ツ木模試」です。実力テストは、中学校の私立訪問のデータとして志望校を受験できるかどうかの判断基準として使われ、塾では五ツ木模試の結果を同様に判断基準として使います。

また、公立入試においては実力重視傾向になっているとはいえ、内申点が各校の基準以上なければ受験すること自体が難しいのが実情です。今年度は、例年10月に実施されていた「大阪市統一テスト」が、コロナ

の影響で中止になっています。このテストは成績上位から内申点が決定され、通知表評価の内申点と比較してどちらか、高いものを受験で採用できる仕組みでした。このテストがなくなることで、毎回の定期テストの重要度も高まります。

**合否を決定する受験は2月・3月ですが、受験校を決定するテストは、10月・11月にある。**

ここを乗り越えなければ志望校を受験することすらできないことを理解しておきましょう。

9月からは、文理学科講座とレベル別受験対策講座が毎週土曜日に実施され、塾としても追込み体制に入っていきます。「ようやくつらい夏期講習が終わったばかりなのに…」と思う人もいるかもしれませんが、受験は待ってられません。

この追い込み時期を迎える皆さんに言っておきたいことは「絶対に志望校をあきらめないこと」です。

ここからはテストが続き、テスト結果で一喜一憂することになります。この時、1つや2つのテストが悪いからと言って安易に第一志望校を下げないこと。

受験とは通常、自分の実力相応の学校を受けるものです。実力は受験当日まで伸び続けるわけですから、現状では志望校のレベルは自分の実力よりも高くなります。そのような意味では受験生の多くがギリギリのラインで志望校を掲げていて、そのレベルの高い低いはあるにしても、各自の大変さに優越はありません。みんな同じように怖くて苦しいのです。

皆さんは、そのプレッシャーに絶対に負けないでください。第一志望校に合格した先輩達全員に共通していることは、そのレベルに届いてなくても、届くように最後まであきらめなかったことです。

周りの子は力をつけているのに、自分は伸び悩んでいる。そんな時、志望校を下げればどれだけ楽だろう。プレッシャーからも解放される。他の学校が、楽しそうにも見えます。

そうやって、**受験の神様は皆さんに試練を与えて、「志望校に本気で行く意思はあるのか？」**と問いかけているのです。

そして、その度に、「YES」と努力する姿勢で答えなければなりません。大切なことなのでもう一度言っておきます。

**志望校に合格できない最大の理由は、志望校をあきらめてしまうことです。**

さあ、ここからが本当の戦いです。先生たちも精一杯、みんなをサポートしていきます。

何があっても、みんなで志望校に合格しよう。



## 塾長の ちょっとい話

TEACHER'S VOICE 塾長 高木 秀章

### 「すきないろでいっぱい」

「すきないろで、いっぱい」

きゅうしょくをたべているとき、いつもグループの人たちとたのしくおはなしをします。そのときに、ともだちが、「女の子は、ボールをけつたり、なげたりするのがよいからなあ」と、いいました。「なんで、そうおもうの？」

とききました。「えっ、きっとそうだから。」ともだちは、いいました。

そのことを、クラスではなしあってみました。いままで、男だから、女だからっていわれてこまったことや、なんでもかなとおもったことはなかったか。ぼくはじぶんのくつのいろを「女みたいないろのくつやん。」ていわれたことや、ようちえんで、「男のくせに、なんでそんなに足がおそいのか。」といわれたことをおもい出し、かなしいきもちになりました。「男のくせに、ハートのシールをはるな。」とかもいわれました。先生やみんなのかがえをいっぱいききました。じぶんのすきないろや、すきなものを、たいせつにしていきたいとおもいました。そして、いちばんたいせつなことは、きめつけなことです。

じぶんは、これからどうするかというと、ともだちのきもちも、じぶんのきもちも、りょうほうとも、大せつにしています。



そろばん生の子が1年生の時に書いた作文だそう。あまりに良かったので載せてみました。文章も素朴で、やさしくて素敵ですが、1年生が学校生活の中で、このような気づきを得ていることが驚きです。文科省がこれからの学力として「主体性・多様性・協働性」を挙げていますが、まさにそれがつまっている作文です。こういうことを教室で話し合わせる先生も本当にすばらしいです。



### カイチからの お知らせ

- 夏期講習最終日に受験した模擬試験結果の返却は9月下旬～10月上旬を予定しております
- 文理学科対策講座・志望校レベル別受験対策講座(中3)の第1タームを9月5日(土)12日(土)、19日(土)、26日(土)で実施します。
- 中間模擬テストを9月中旬に実施します。詳しい日程は授業内でお知らせします。
- 小学部診断テストを9月30日(水)に実施します。

## Focus

## CLASSROOM REPORT 教室レポート

夏期講習期間の  
予備校の様子

熊谷 真宏 (カイチ予備校)

全国的に猛暑日が続いた今年の夏ですが、9月に入ってからもまだまだ暑い日が続いています。今年は新型コロナウイルスの影響で夏でもマスクを着用しなければならず、例年以上に熱中症対策にも気を遣わなければならないので、1日1日がまさに命懸けと言っても過言ではない状況です。そんな過酷な状況にも負けず、それぞれの目標に向かって頑張る高校生達の様子をお伝えしたいと思います。



今年の夏期講習は7月20日(月)から8月29日(土)まで、約40日間に渡って行われました。例年であれば、ほとんどの高校で1学期の期末テストが7月初め～中旬に実施され、夏期講習期間までにテストが終わっていないということはなかったのですが、今年は緊急事態宣言による長期の休校の影響もあり、中には7月末にテストを実施する高校もありました。高3生の場合はテスト勉強ばかりを優先するわけにはいかないので、テスト勉強と夏期講習(受験勉強)を両立するのはとても大変だったと思います。ですが、そんな中でもテストで満点近い点数を取ってくる生徒もいて、本当に頑張ってくれました。

さて、8月に入ってからもほとんどの高校では引き続き授業が行われていたので、連日のように自習室は学校帰りに勉強しに来る生徒達で埋まっていました。高1生は普段から先生達が「高1の勉強でつまらずと取り戻すのに時間がかかって受験に間に合わない可能性もある」という話をしており、日ごろの勉強の積み重ねの重要性を理解してくれているので、まずは学校の授業内容を1つ1つしっかりと理解しようとして取り組む姿勢が見られました。

高2生はいよいよ高校生活の折り返し地点に差し掛かり、このあたりから具体的な大学や学部を明確に意識した勉強に取り組み始める生徒も

出てきます。高1のときは先生から自習に来るように言われてもなかなか姿を見せなかったのに、高2の夏になって自主的に来る頻度が多くなっている生徒や、「そろそろ真剣にやらないとまずい」という思いで、今までとは目の色を変えて勉強に取り組む生徒も見られるようになりました。

高3生は受験生なので勉強するのが当たり前だと思われるかもしれませんが、今年はコロナの影響で学校の授業がストップしてしまい、果たして受験までに間に合うのかといった不安があったり、楽しみにしていた学校行事が中止になったり外出自粛によってストレスが発散できないなど、今まで考えられなかったイレギュラーな状況で、コンスタントに勉強をやり続けるモチベーションを保つというのは非常に困難であると言わざるを得ません。ですが、そんな状況でも3月からずっと自習室に毎日のように通い続け、1日10時間以上の勉強を続ける生徒達がいました。彼女達は普段から仲が良く、同じ大学を目指しているということもあり、休校期間の間もいつも一緒に励ましあいながら勉強を続けていたそうです。その成果は、模試の結果にはっきりと表れました。なかなか偏差値が上がらずに苦戦する生徒が多い中、数学の偏差値ランクがS、国語の偏差値ランクがAなど、この時期では十分すぎるくらい成績でした。もちろんまだまだ油断はできませんが、これからの受験勉強にさらに弾みをつけるという意味では最高の結果だったと言えます。彼女達が素晴らしいのは、「コロナだから仕方ない」という言い訳を一切せず、目標に向かってひたすら努力を重ねてきたということです。大人でさえモチベーションを保つのが難しい状況ですから、本当に頭が下がる思いです。



他にも私が「すごいな」と感心させられた生徒がいます。今回の夏期講習では、ふだん予備校に

通っていない生徒であっても1講座でも申し込めば講習期間中は自習室が使い放題となっていたのですが、高1のある講習生は貴重な短い夏休みに入るお盆期間も毎日のように自習に来て、最終利用時間の夜10時半まで勉強していました。聞けば、「来週からは部活が忙しくなるし、休み明けにテストがあるから」とのこと。自己管理がしっかりできていることも素晴らしいですが、たとえ短期間でも使える環境を最大限に利用していることに感心させられました。



コロナが収束するまでにはまだまだ時間がかりそうです。先生達もマスクをしながら声を張り上げる授業が続いて体力的にしんどい面もありますが、それ以上に生徒達は大変な状況にあるということと、そんな状況でも頑張っている生徒達がいるということを胸に刻み、ここからさらにまた頑張っていきたいと思います。



## Education

## KAICHI'S ACTIVITY カイチの教育

RETHINKING SUMMER  
ACTIVITY AMID A PANDEMIC  
— コロナ禍で夏の活動を見直してみる —

藤川 カトリーナ (トーキングキッズ)

Summer is almost over, and we are looking forward to autumn's chilly weather. Looking back to our last year's summer activity, we had a camp that was really enjoyed by everyone at Shiawase No Mura in Kobe; we did our Talking Kids' summer camp "Blast". Time flies and one year had passed. Reminiscing our activities last year is nostalgic because of the great and fun memories we had together. Fast forward to this year, we prepared a different camp where we will be engaged into different environment that will teach us skills, improve our English ability, and have fun at the same time. However, we were all surprised because of the Corona virus that created a global scare and eventually turned into a pandemic. We in Kaichi Sougo Gakuin, considering each and every student's health and as we are all abiding citizens of this country; social gatherings are prohibited, going outside our homes are restricted and we are all advised to always be cautious when we meet other people to prevent infection. With that, our school activities and plans were changed, adopted the usage of the internet through the application called Zoom to continually have our lessons and activities. Unfortunately, our most awaited summer camp this year was also cancelled and changed.



We were hesitant that this might not be as fun and interesting for the students like last year's event but as we introduce each experiment, we can say that we really had a

great time with the kids. We were able to research interesting activities, safe experiments that can help grow the interest of every student and help them learn the English language in a fun way. We have thought of different interesting experiments for our Talking Kids' students. We had a balloon popping with the use of orange peel's acidity, some of the students were afraid but their interest pushed them to try it. We had bubble making activity using mixtures of sugar and liquid detergent, we showed the students on how to make a rainbow by pouring water into the plate with small round colored chocolate candies, they saw how the chocolate cover melted and how the colors blended and formed into a very nice rainbow-like color wheel, and the most interesting activity was the Dalgona cocoa. We used sugar, egg whites, cocoa powder, and milk. This was the most awaited activity because they were interested on how to make it and they were excited about the taste.



Rest assured that these experiments were safe, and we made sure that no one was harmed. Some of the activities were basic, but it was remarkably interesting to the point that we saw how they were amazed. Our



Dalgona cocoa making activity needed to be supervised because of the complexity of the procedure but what surprised us was that every child understood and learn the process and the lessons we had. As everyone heads home, they finished their classes with a smile that gave us fulfillment as we think of how we made our students happy and knowing that they learned a lot from these activities. Experiencing these kind of experiments personally along with their classmates as they learn English is a different level of memory that they can cherish. Through these activities. We are all looking forward to our future summer camps that we can all do things freely without worries. With this new normal that we are in, I hope you will all be safe and be healthy. I believe that our students will be the leaders of our future and we are hoping that we will be a tool that will equip them to be the best version of themselves.



暑かった夏がもうすぐ終わり、涼しい秋の季節が楽しみです。昨年の夏、トーキングキッズでは、神戸にあるしあわせの村でサマーキャンプを開催し、とても楽しい時間を過ごしました。あれからあっという間に一年が経ちました。皆さんと共に楽しく過ごした昨年のキャンプを懐かし思い出します。今年も英語の上達はもちろんのこと、さまざまな体験を皆さんにさせていただこうと昨年とはまた違ったキャンプを計画していました。しかし、コロナウイルスが世界中に恐怖をもたらし、パンデミックに陥ってしまいました。開智総合学院では、生徒の皆さんの健康を第一に考え、職員も人に会う時には注意したり、大勢の人が集まる場所などへの外出を控えています。そこで私達開智総合学院では、通常の授業では人が密集するため、ZOOMというインターネットのアプリを使用して授業を行いました。残念ながら、楽しみにしていたトーキングキッズのサマーキャンプもキャンセルに

なりました。そこで私達は、昨年のサマーキャンプのように楽しくないかもしれない躊躇しましたが、さまざまな実験のイベントをする事にしました。当初の不安も吹き飛ばすほど生徒達と楽しい時間を過ごすことができました。このさまざまな実験によって、生徒の皆さんは興味を持って、楽しく英語を学ぶことができます。トーキングキッズクラスの皆さんに楽しんでいただけるいろんな実験を用意しました。まず、オレンジの皮で風船を割る実験です。何人かは怖がっていましたが、みんなでやってみました。次に、砂糖と液体洗剤を使って、シャボン玉を作る実験をしました。マーブルチョコをお皿に乗せて水を注ぐと、チョコのコーティングが溶けて、いろんな色が混ざり合って虹のように見えとてもきれいでした。そして、メインイベントのダルゴナココア作りです。使ったのは砂糖、卵白、ココアパウダー、牛乳です。どんな作りか、どんな味がするのか、みんなワクワクしてい

ました。実験は安全に行いましたので、ご安心ください。いずれも基本的な実験でしたが、生徒達はどの実験も驚き興味を持って参加してくれました。手順が複雑なため、生徒達が作っているのを見なければなりませんでした。驚くことにみんなちゃんと私たちが最初見本で作ったとおりに作っていました。みんな笑顔でレッスンを終え、家に帰って行きました。私達はこれらの実験を通して生徒達が何を学んでくれたのかを考えました。

さまざまなレベルの友達と一緒にいろんな実験をする事は、貴重な体験になるでしょう。次回は誰もが安心して自由に楽しめるサマーキャンプを楽しみにしています。今、私達が置かれている新しい日常で、皆さんの健康をお祈りしています。私達の生徒が未来のリーダーとなってくださることを期待し、みんなが自分自身を高めていってくれることを願っています。